

駅隣接ビルに 日帰り手術専門で

外科医として12年余り、ある程度大きな手術もこなせるようになったので、専門特化して一つのことをやりたいと思った。この10年で鼠径ヘルニアの術式が大きく変わり、5年ほど前から日帰り手術に興味を持った。1999年から国際学会に合わせて、主に鼠径ヘルニアの手術を手がける日帰り手術センターを、アメリカで見学した。学術面でも評価の高い著名な施設が、メディカルモールの一角に60坪ほどのスペースで、外科医と麻酔科医の2人だけで1日2例、年間約400例をこなしていた。

外科医にとって鼠径ヘルニアなど割と小さな手術なので、専門性を見出しながらも、それだけで満足できるか自問した時期もあったが、約2年前に日帰り手術専門で開業の心が固まった。関東や関西には大病院の日帰り手術センターがあり、北海道にも大病院での動きがあるので、とにかく北海道で一番初めにやりたかった。

●設備を共用するモールなら 少ない資金でも

日帰り手術には場所が肝心だが、札幌市中央区で土地を買うところから始めれば2億円、ビル開業でも1億円という試

算だった。昨年9月、札幌駅に隣接したJRタワーにメディカルモールができること知った。CT、MRIなどの機器は共用で、使った分だけ払えばよいということだった。オーナーは内科系をそろえる構想だったが、日帰り手術の設備があればぜひ入りたいと話した。手術室内装や機器を準備してもらえて、使用料として1時間8000円を支払うことになった。手術室は他院の先生も利用できる。自院のスペースは手術室を含めて30坪、開業日以前の家賃は一切かからなかったが、供託金などで4000万円以上必要だった。

個人で日帰り手術に特化し、しかもレンタル手術室のビル診療所というのは、たぶん日本で初めてだろう。周りからは、いきなり手術専門ではやっていけないと言われた。またどんな小さな手術でも、看護師と2人ではトラブルに対処できないとの意見もあった。しかしアメリカでは、せいぜい研修医とナースが手術に参加し、ベテランの外科医が2人でやるような無駄はなかった。アメリカでは鼠径ヘルニア手術だけでクリニック経営が成り立つが、日本では不安があり、日帰り手術専門として、鼠径ヘルニア、下肢静脈瘤、肛門疾患、すり傷、切り傷、乳腺、甲状腺などを組み合わせた。

スタッフは常勤の看護師1人、手術時のパート看護師1人。受付業務はオーナー会社に委託している。モール全体で管理される電子カルテがあり、月々使用料を払って利用できる。

●手際の良い手術が頼みの綱

診察室と手術室と回復室があればいいと、省けるところは省いた。麻酔も基本的には自分でを行い、子供の手術だけは麻酔科



宮崎恭介 (みやざき きょうすけ)
みやざき外科・ヘルニアクリニック
(北海道札幌市) 院長
2003年4月、36歳で開業
函館市生まれ、聖マリアンナ医科大学卒
<http://www.medical-plaza.com/m-hernia/index.html>

の先生に来てもらう。手術の患者さんは9時半に来院して10時に手術開始、普通の先生が1時間以上かかる手術を30分ほどで終わられるのが自分の強みだ。患者さんは手術室を11時に出て、回復室で平均3時間半の安静を保つ。病院では手術室までの移送に時間がかかるが、ここはわずか数歩だ。とける糸を使用しており抜糸も不要、表面は強力な接着剤を使うので当日からシャワーも大丈夫。さらに院内での細菌感染の危険性が少ないので、術後の抗生剤も出さない。保険3割負担の人で、病院に5日入院すれば約10万円かかるが、日帰り手術は4~5万円程度で済む。患者さんには入院の煩わしさもなく、日常生活への復帰も早い。特に高齢者では呆けの問題も防げる。働く人も土曜日に手術を受ければ、仕事を休む必要もない。開業3カ月で、50~60代を中心に、生後4カ月~94歳まで約50例をこなした。

患者さんと話す以外はいつも同じメンバーで、ちょっと寂しいなと思うことがあるくらいで、病院に戻りたいとは思わない。口コミや新聞広告の効果で、当初予想したよりも患者さんは多い。ただ一等地なので家賃は高く、良い手術を短時間で続けていかないと今の形態は成り立たない。今後さらに日帰り手術のメリットを市民に広める活動をしていきたい。(談) MA



みやざき外科・ヘルニアクリニックの手術室。クリニック内にはあるが、レンタル型。